

Motor Expoにみる中国メーカーの台頭

北陸銀行 国際部
 バンコク駐在員事務所
 所長 湧川 裕明

1. はじめに

2022年12月1日から12日に、第39回モーターエキスポがバンコク郊外のイベント会場「インパクトチャレンジャー」にて開催されました。本イベントは、自動車・バイクの展示販売会で、10か国の自動車35ブランド、8か国のバイク17ブランドなどが出展しました。筆者も会場に足を運びましたが、日系メーカーの存在感はやはり大きいと感じる一方で、EVを中心に中国系メーカーの勢いも増してきていると思いました。





Motor Expo 入場口

2. タイ国内市場での日系メーカーの圧倒的な存在感

【表1】主要メーカー別小売販売台数(2022年1~11月累計)



(単位:台)			
1	Toyota	258,612	33.7%
2	Isuzu	194,275	25.3%
3	Honda	74,518	9.7%
4	Mitsubishi	46,181	6.0%
5	Ford	38,079	5.0%
6	Mazda	30,059	3.9%
7	MG	24,536	3.2%
8	Nissan	20,357	2.7%
9	Suzuki	18,411	2.4%
10	Hino	12,703	1.7%
	その他	48,858	6.4%
	合計	766,589	100.0%

 日系メーカー
 中国系メーカー

(出所:タイ工業連盟)

【表2】Motor Expo開催期間中の予約販売台数

(単位:台)			
1	Toyota	5,084	17.4%
2	Honda	2,795	9.5%
3	Isuzu	2,383	8.1%
4	Suzuki	2,028	6.9%
5	MG	1,965	6.7%
6	Nissan	1,908	6.5%
7	Mazda	1,760	6.0%
8	BYD	1,701	5.8%
9	GWM	1,439	4.9%
10	Ford	1,409	4.8%
	その他	6,802	23.2%
	合計	29,274	100.0%

 日系メーカー
 中国系メーカー

(出所:「Motor Expo」HP)

下表1の通り、タイ国内市場において日系自動車メーカーの存在感は圧倒的です。上位3社(トヨタ、いすゞ、ホンダ)での販売シェアは約7割となっており、他社を合わせた日系メーカー全体の販売シェアは8割を超えています。

トヨタがシェア1位であるのは世界的な規模からみても容易に理解できますが、日本では商用車しか販売を行っていないいすゞが、ホンダを抑えてシェア2位であるのは意外に見えるかもしれませんが、これは、いすゞがタイで大人気の「ピックアップトラック」を展開していることに起因しています。(表1の販売台数合計76万6,000台中、1トンピックアップトラックは41万1,000台と50%超を占める車種です。)

一方、表2はMotor Expo開催中の予約販売台数です。Motor Expoに足を運んだ人からの注文ですから、車への関心が高い層の嗜好が反映されていると言えるかもしれません。上位10社中、日系メーカーが6社を占めていますが、MG、BYD、GWMと言った中国系メーカーが入っているのが注目されます。特に中国系メーカーはEVを前面に展開しており、タイにおけるEVの今後の普及を考える上で注視すべき動きだと思います。



ピックアップトラックに関心示す来場者



GWM社のEV「ORA」

3. タイ政府のEV推進策

タイの新経済モデル「Thailand4.0」において、次世代自動車を重点産業の一つとして位置付け、BOI(タイ投資委員会)の投資恩典でEVに関連した生産能力の拡大を後押ししています。この動きに中国系メーカーが素早く反応し、タイをEV生産拠点とするべく投資を増やしています。BYDは2022年9月、初の海外工場をタイに設立することを発表しました。また、MGは中国の上海汽車が70%出資していますが、タイ財閥のCPグループも30%を出資するメーカーです。



BYD社のプレゼン風景

4. おわりに

タイの自動車産業は、国内向けだけでなく、重要な輸出産業であり国を挙げてEV化を推進しています。今のところ、中国系メーカーの動きが先行し、日系メーカーの遅れが気になる状況にあるかもしれませんが、日系メーカーはこれまでの圧倒的な存在感と、サプライチェーンや販売・メンテナンスといったサービス面での優位性において確固たる地位を確立していることは間違いありません。これまでの基盤を活用して、中国勢とどう渡り合っていくか、今後も注目していきたいと思えます。

<ご注意>

文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。記載内容については、ご利用者の判断と責任のもと、ご利用いただきますようお願いいたします。

ほくりく長城会

海外ビジネス情報

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局

〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F

((株)人材情報センター内)

TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565

E-mail: info@chojo-hokugin.jp